

大江首席交渉官代理による記者会見の概要
(カトラー米国次席通商代表代行との協議後)

日時：平成26年9月10日（月）12：00頃

場所：外務省中央玄関

（記者）本日の協議の結果について。

（大江代理）具体的な内容には入らないが、正直言って、今回の進展は極めて限られたもの。期待した程の進展はなかった。ただ、原因は両方にあり、我々も、先週から多くの国と協議し、米国以外との協議は進展を見たが、毎回、交渉が終わったら次の交渉の提案を作るという自転車操業であり、今回もハノイから帰国した次の日からの交渉なので、こちらも十分準備できなかったという点もあったと思う。今回の交渉だけについて言えば、あまり大きな成果は得られなかったが、我々に残されている時間はそれ程ないので、これからどうやって進めていくかということを考えないといけない。

（記者）今後の協議の進め方について決まったことはあるか。

（大江代理）ない。この後昼食を一緒にとりながら議論したい。

（記者）日米の閣僚協議の準備が整ったというにはまだ早いか。

（大江代理）閣僚が会うのは、そこで全てまとめるかは別として、閣僚でやるから進むという部分が多く出てきて、閣僚でやる意味がある時である。今の段階でそういう状況ではない。そこへ持っていくために、これからどうしたらいいかということ。

（記者）閣僚会合を開くためには、もう一度カトラー次席通商代表代行と協議をする必要があるという状況か。

（大江代理）それも今の段階で決められない。何もしないでいきなり閣僚ということには恐らくならないが、お互いのスケジュールをすり合わせていると中々会えないので、物理的に会うのか、それとも電話やテレビ会議のような形にするのか分からないが、少なくとも何らかの準備をしないとそこへ持っていけないという段階。

（記者）事務レベルと閣僚レベルで話す内容は、同じテーマなのか。

（大江代理）テーマは全て同じだが、閣僚で議論してもらうには、政治判断で閣僚に決めてもらう点を絞り込む必要がある。我々がやっているような細かい議論を全部大臣にやってもらうのは適当ではない。

（記者）事務レベルで本来詰めるべきと考える部分がまだできていないということか。

(大江代理) 閣僚でやるというのが最後という意味ではないが、閣僚で議論しても
らうものが用意できていないと、閣僚で会っても意味ある会談にならない。もう
少し、我々のレベルでの作業が必要だと思う。

(記者) どれくらいの期間を見て、先ほど、あまり時間が多くないと発言したのか。
(大江代理) TPP全体がまとまるには、日米だけでなく、他国との市場アクセス交
渉もまとめる必要があり、ルールもまとめないといけないので、どれだけかかる
かは分からない。市場アクセス交渉は、ここ1、2か月でまとめないといけないと
思っている。

(記者) 方程式、枠組みの話が中心なのか、それとも、すでに数値の話まで踏み込
んでいるのか。

(大江代理) すべてセットなので、枠組みもだいたいの相場観が決まらないと、双
方合意できない。それぞれリンクしている。

(記者) 多少、数字の話もしているのか。

(大江代理) 数字というか、相場観の話。

(記者) 主要な論点として豚肉、牛肉のセーフガードがあると思うが、その点も含
めて両者の間には距離感があるのか。

(大江代理) その通り。

(記者) 距離感とはどの程度か。

(大江代理) まだかなりある。

(記者) 先方の姿勢は前回までと比べてどうか。

(大江代理) 少なくとも過去3回、お互いまとめようという強い意志をもってやっ
てきたので、その意志が変わったということではない。

(以上)